

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	5年時	6年時	5年時	6年時	5年時	6年時
H29 入学 現 6年生	県	全国	県	全国	県	全国
	(12月)	(4月)	(12月)	(4月)	(12月)	(4月)
	61.5	68	47.0	63		64
	(1.05)	(1.06)	(1.11)	(1.02)		(1.03)
R4 正答率の全国比	1.04		1.00		1.01	

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語科では、「知識・技能」は高く、「思考・判断・表現」がやや低くなっている。
- ・算数と理科では、どの領域でも全国平均と同等かそれ以上の正答率となっている。
- ・記述式の回答（思考力・判断力・表現力）について、国語では全国平均と比べて1.3ポイント低く、算数では5.7ポイント高く、理科では1.8ポイント低い結果となり、ばらつきが見られた。
- ・家庭学習では、自分で計画を立てて取り組んでいるものの、学習する時間は全国平均と比べて少ない結果となった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・記述式の問題に対しては、教科によって正答率に偏りが見られた。予想を立てて話し合ったり根拠や理由をもとに表現したりする活動を取り入れていく。
- ・毎時間の授業において振り返りを発表する時間を設定し、自分の考えを表現したり友だちの意見を聞いたりし、考えを深めることができるようにする。
- ・身に付けた理解が曖昧になっている部分もあるので、定期的に復習する必要があると考える。
- ・具体的な場面をもとに問題の意味をとらえさせたり、児童が出した解答に対し意味を問いかけたりし、解答を出すまでの過程に目を向けさせる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習を充実させるため、自主学習を推奨する。全校で自主学習コンテストを行ったり、自主学習週間を設定したりし、家庭学習へ取り組む意識を高めていく。
- ・携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などに時間を取られている児童がいる。文書などを用いて家庭の協力を求めつつ、生活習慣を改善していくよう働きかける。